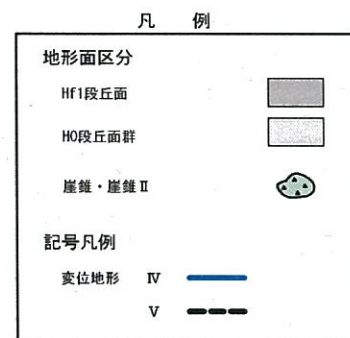
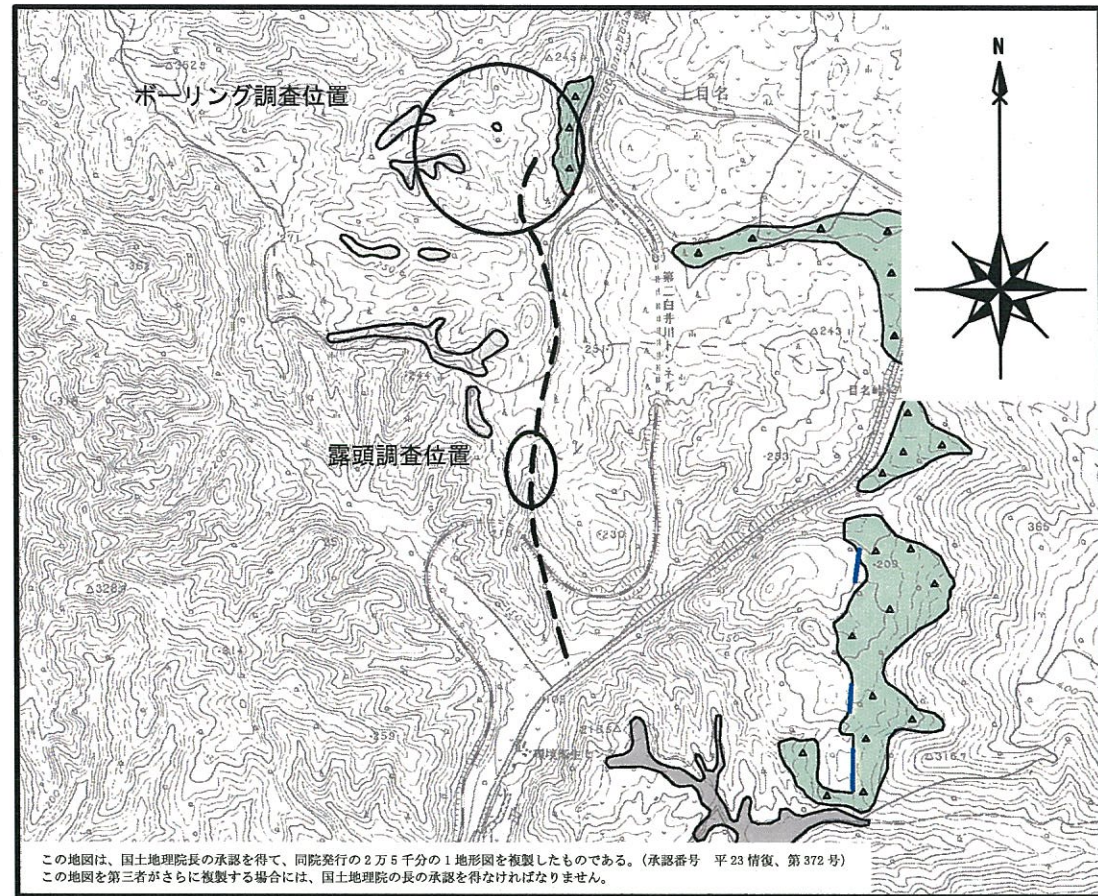


敷地周辺・近傍の断層等

4. 上目名付近の断層

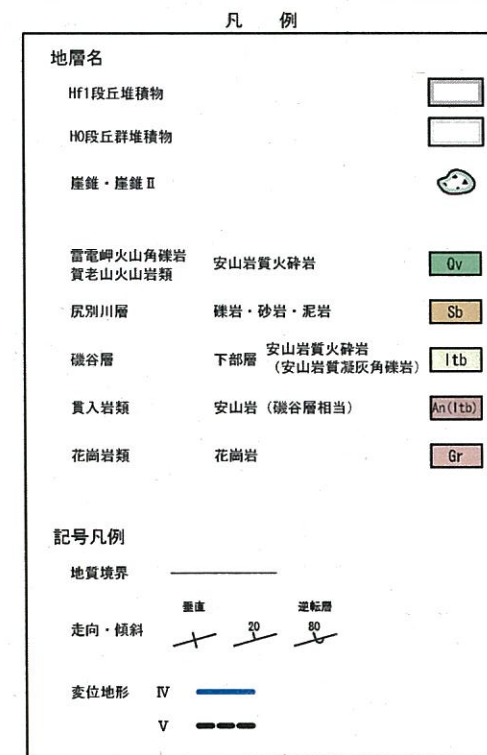
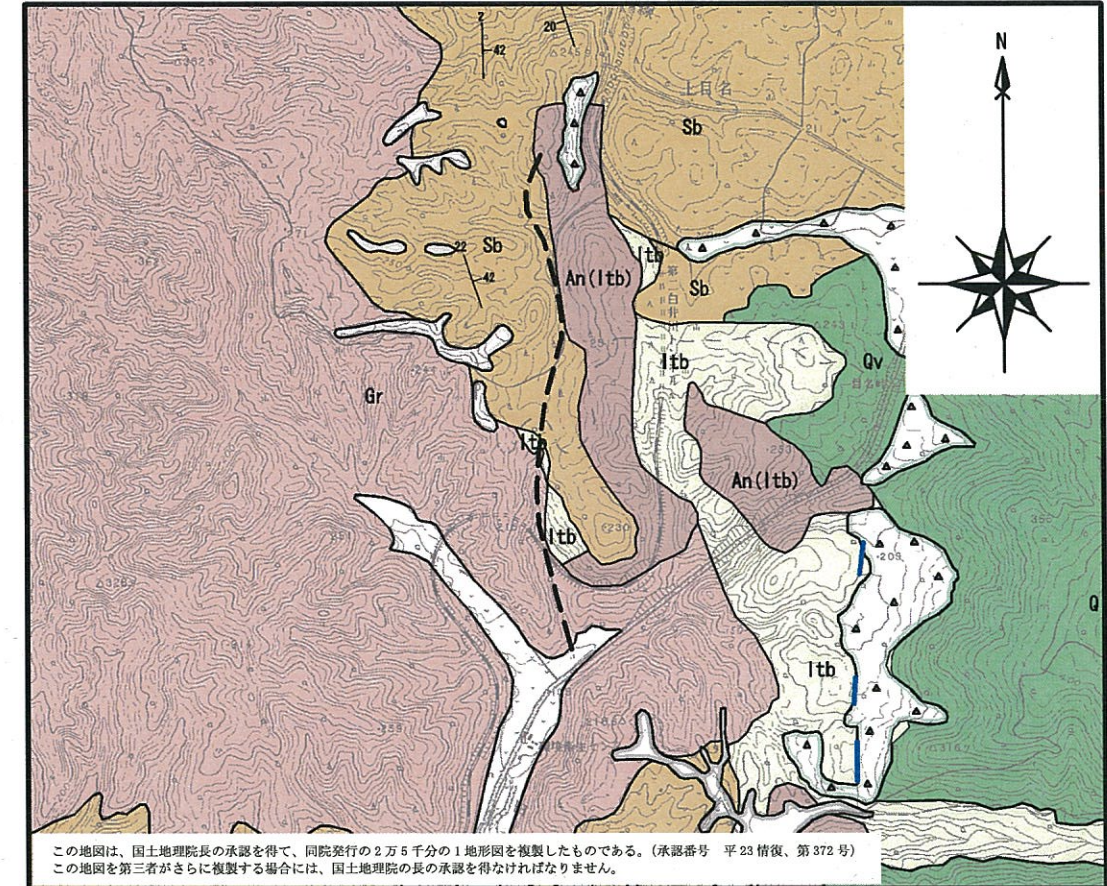
調査項目	調査手法	調査結果	備考
文献調査	—	・新編 日本の活断層 (1991) : 記載なし	
		・活断層詳細デジタルマップ (2002) : 推定活断層 L=約 2km、N-S 方向、東側隆起	
		・50 万分の 1 活構造図「札幌」(1984) : 記載なし	
地形調査	空中写真判読	・文献に示される断層位置付近は、南北に延びる丘陵状の高まりが認められ、その西側に直線状の谷及び幅の広い鞍部が認められるが、連続性が悪く短い。また、断層位置両側の丘陵及び延長部の山地にも、区分Ⅰ～Ⅳに該当するような変位地形は認められない。	添付図 4 - 1 上目名付近の断層周辺の地形分類図及び地質図
地表地質踏査	—	・文献から推定される断層の北部及び中部では、西側の山地に尻別川層（上部鮮新統～下部更新統）の砂岩及び礫岩が、東側の丘陵には礫谷層（上部中新統）相当の安山岩類が分布する。	添付図 4 - 1 上目名付近の断層周辺の地形分類図及び地質図
		・文献から推定される断層の南部では西側の山地に花崗岩類が、東側の丘陵には尻別川層の砂岩及び礫岩、礫谷層の凝灰角礫岩並びに安山岩類が分布する。文献から推定される断層位置を横断する約20m区間の露頭では花崗岩が連続して確認され、割れ目や風化は認められるものの、破碎帯等の断層の存在を示唆する構造は認められない。	添付図 4 - 2 上目名付近の断層南部の露頭スケッチ
ボーリング調査結果	—	・文献から推定される断層の北部周辺で行ったボーリング調査結果では、尻別川層は概ね東傾斜で分布しており、尻別川層中には、破碎帯等の断層の存在を示唆するような構造は認められない。	添付図 4 - 3 上目名付近の断層北部のボーリング調査結果
総合評価		・上目名付近の断層付近では、南北に延びる丘陵状の高まりが認められ、その西側に連続性が悪く短い、直線状の谷及び幅の広い鞍部が認められるが、区分Ⅰ～Ⅳに該当するような変位地形は認められない。また、上目名付近の断層周辺には、文献に記載されるような東側隆起の断層を示唆する地質及び地質構造は認められない。	



文献に示される断層位置付近では、南北に延びる丘陵状の高まりが認められ、その西側に直線状の谷及び幅の広い鞍部が認められるが、連続性が悪く短い。また、断層位置両側の丘陵及び延長部の山地にも区分I～IVに該当するような変位地形は認められない。

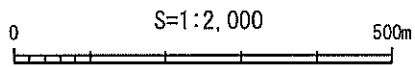
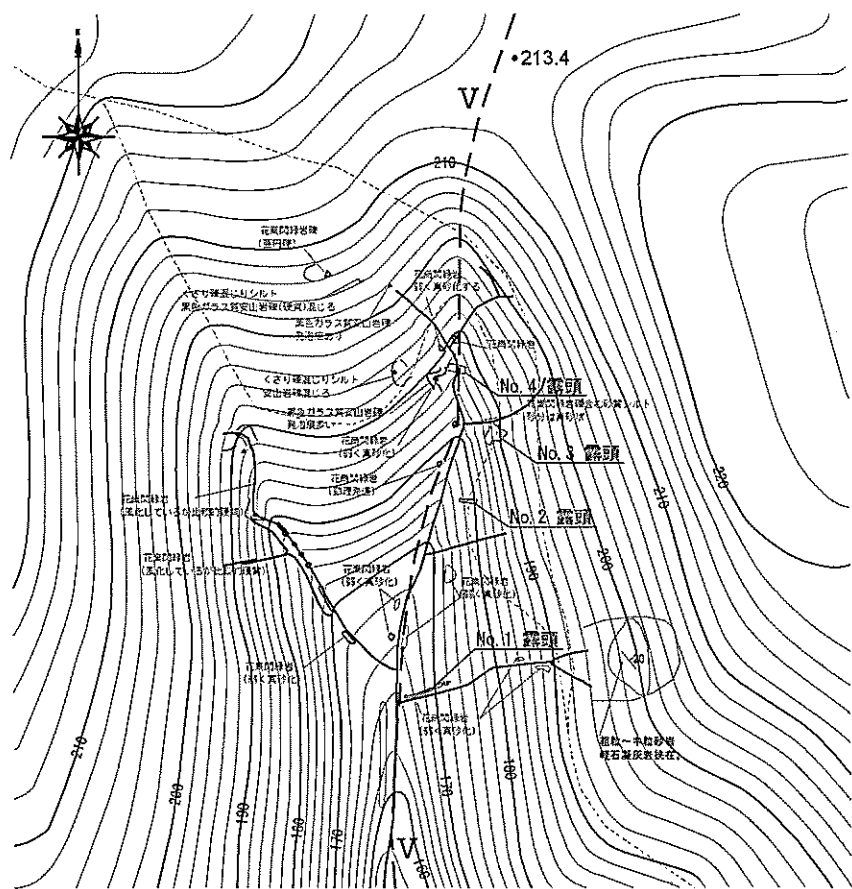
これらのことから、区分I～IVに該当するような変位地形は認められないが、文献の記載を参考に、上記地形要素を結び区分Vとして示した。

地形分類図



地質図

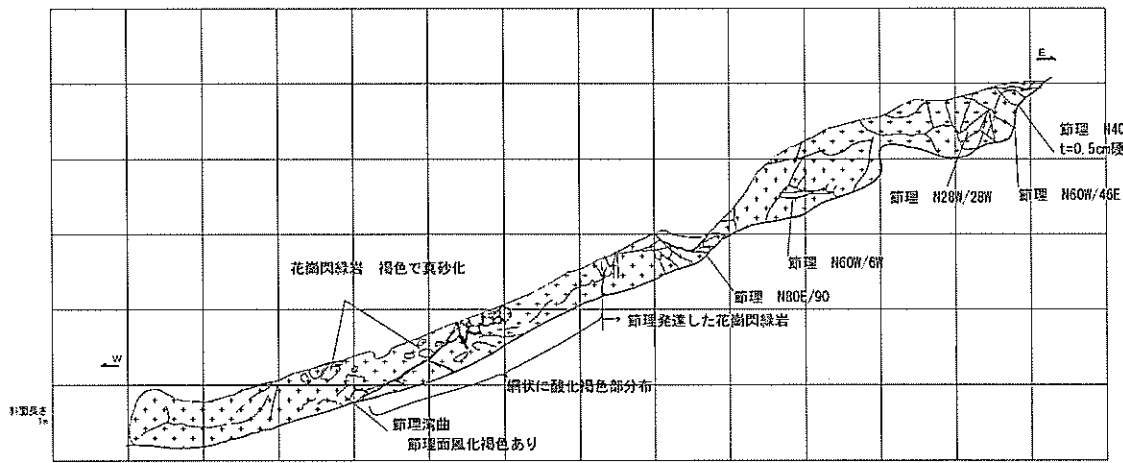
添付図4-1 上目名付近の断層周辺の地形分類図及び地質図



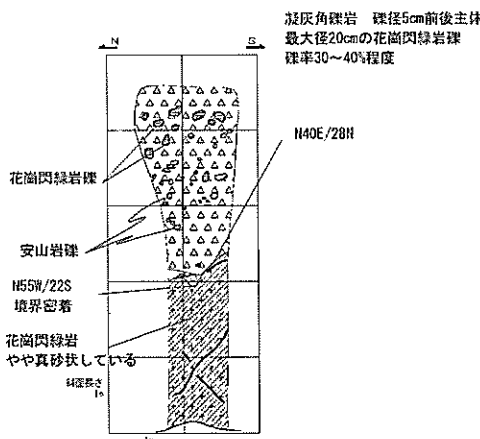
調査位置図

凡 例

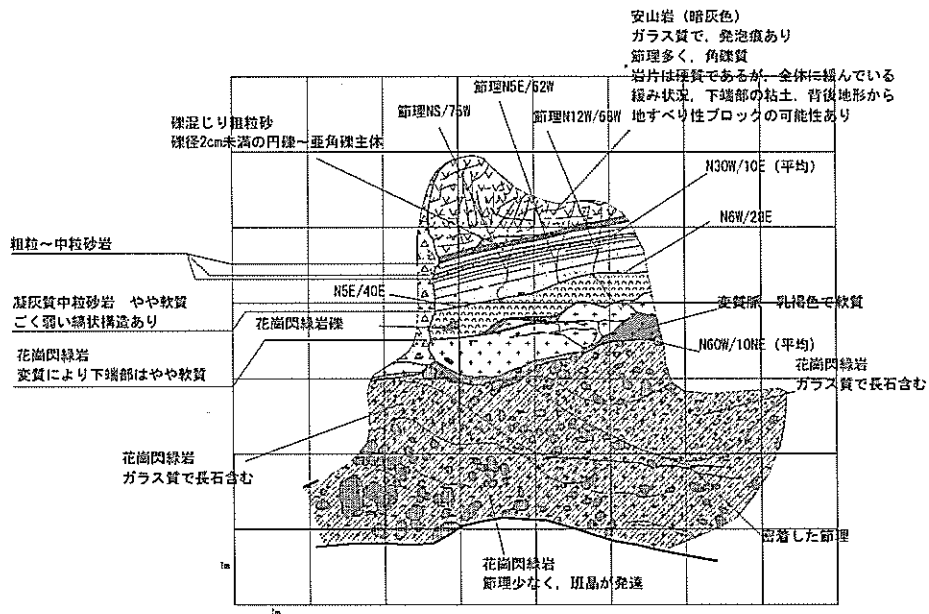
崖錐堆積物	礫混じりシルト		花崗閃緑岩礫	
	礫混じり粗粒砂		ガラス質岩片	
尻別川層	粗粒～中粒砂岩		岩種境界線	
	凝灰質中粒砂岩		岩相境界線	
磯谷層	安山岩		葉理	
	凝灰角礫岩		節理	
花崗岩類	花崗閃緑岩(変質部)		粘土脈	
	花崗閃緑岩		変質部	
			岩片軟質部	



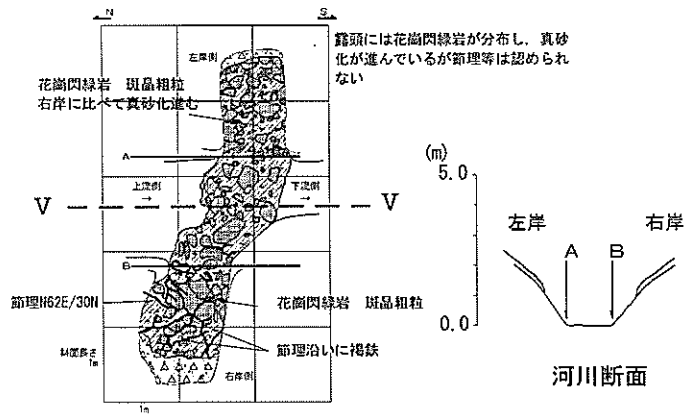
No. 1 露頭



No. 2 露頭

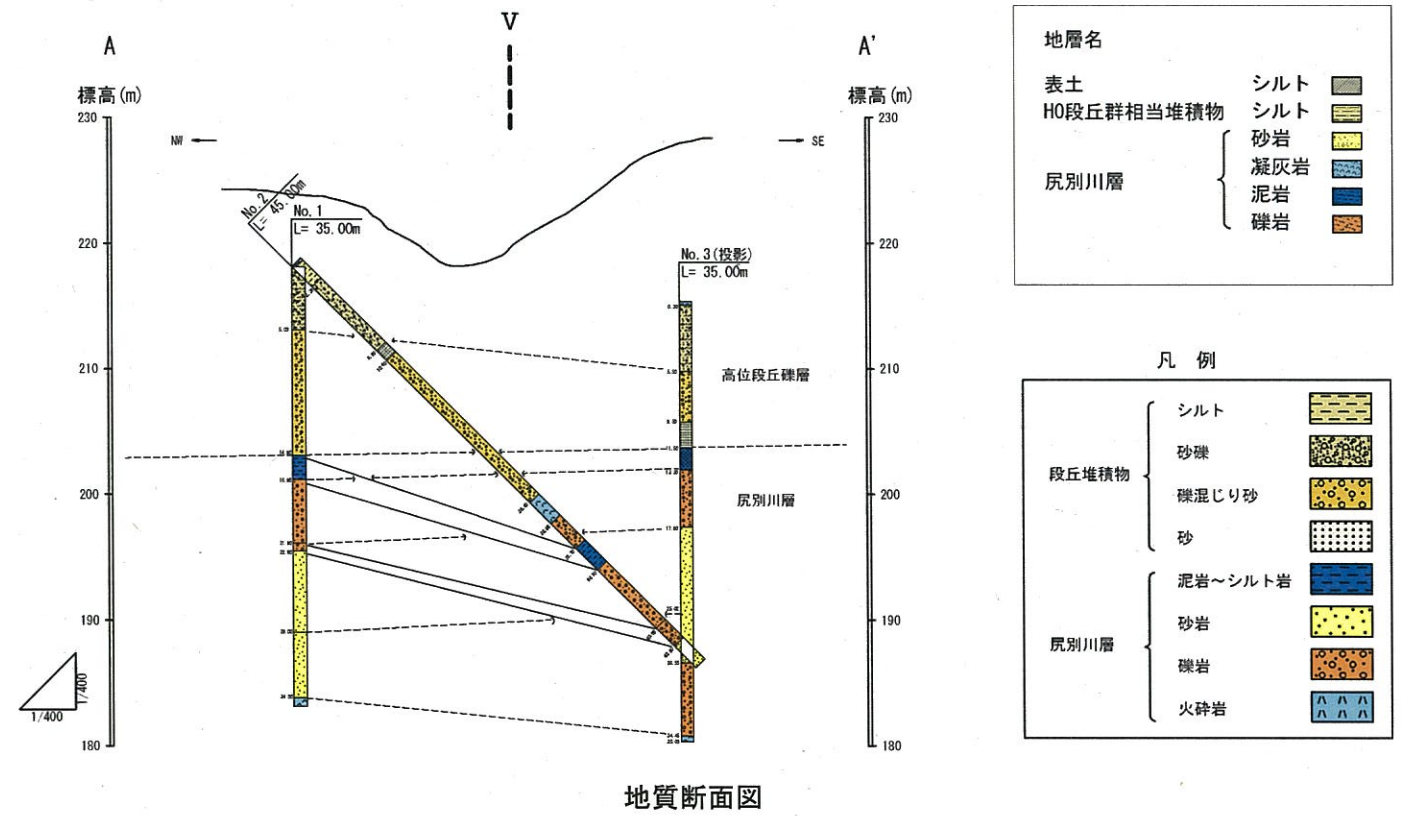
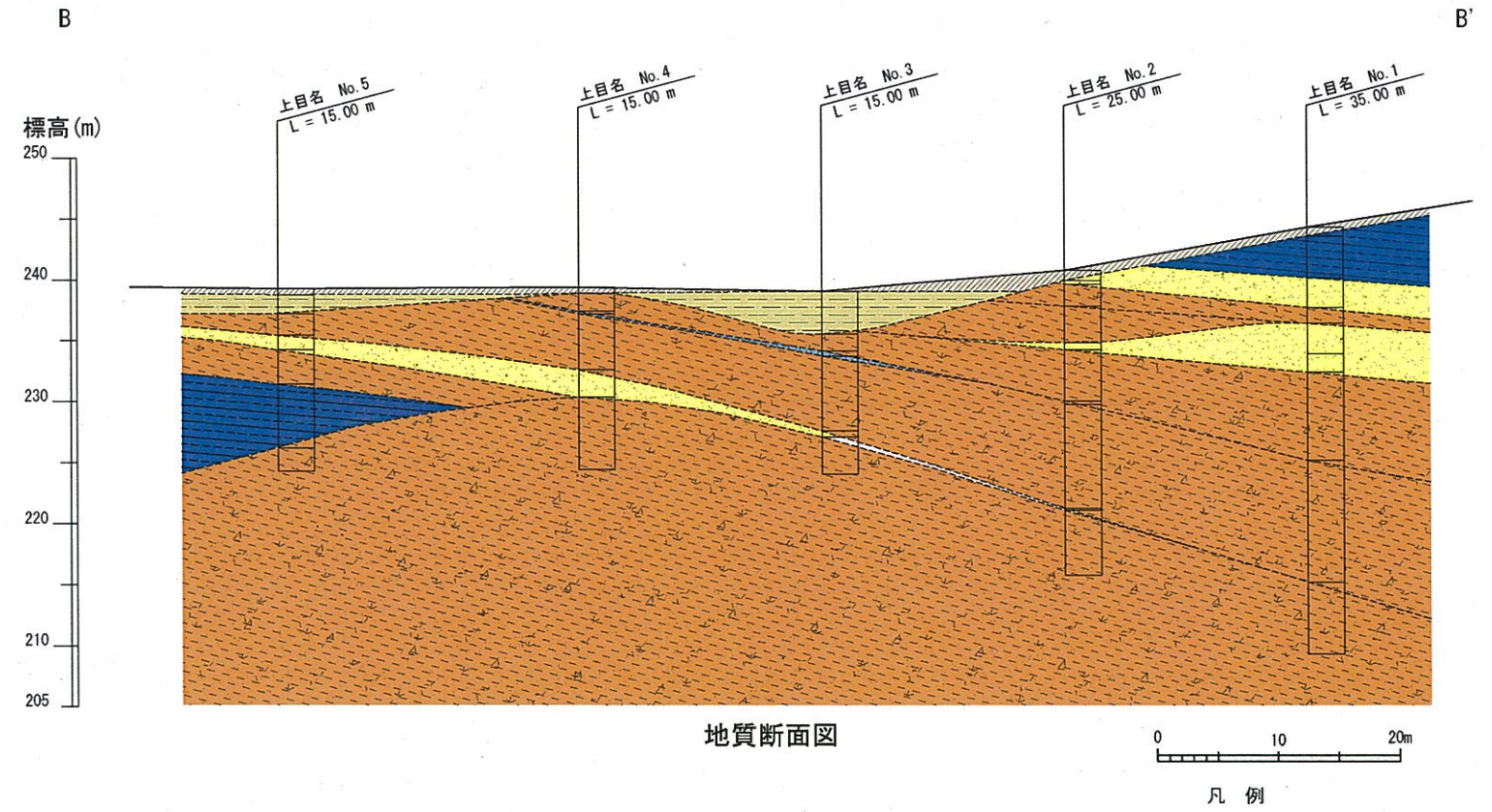
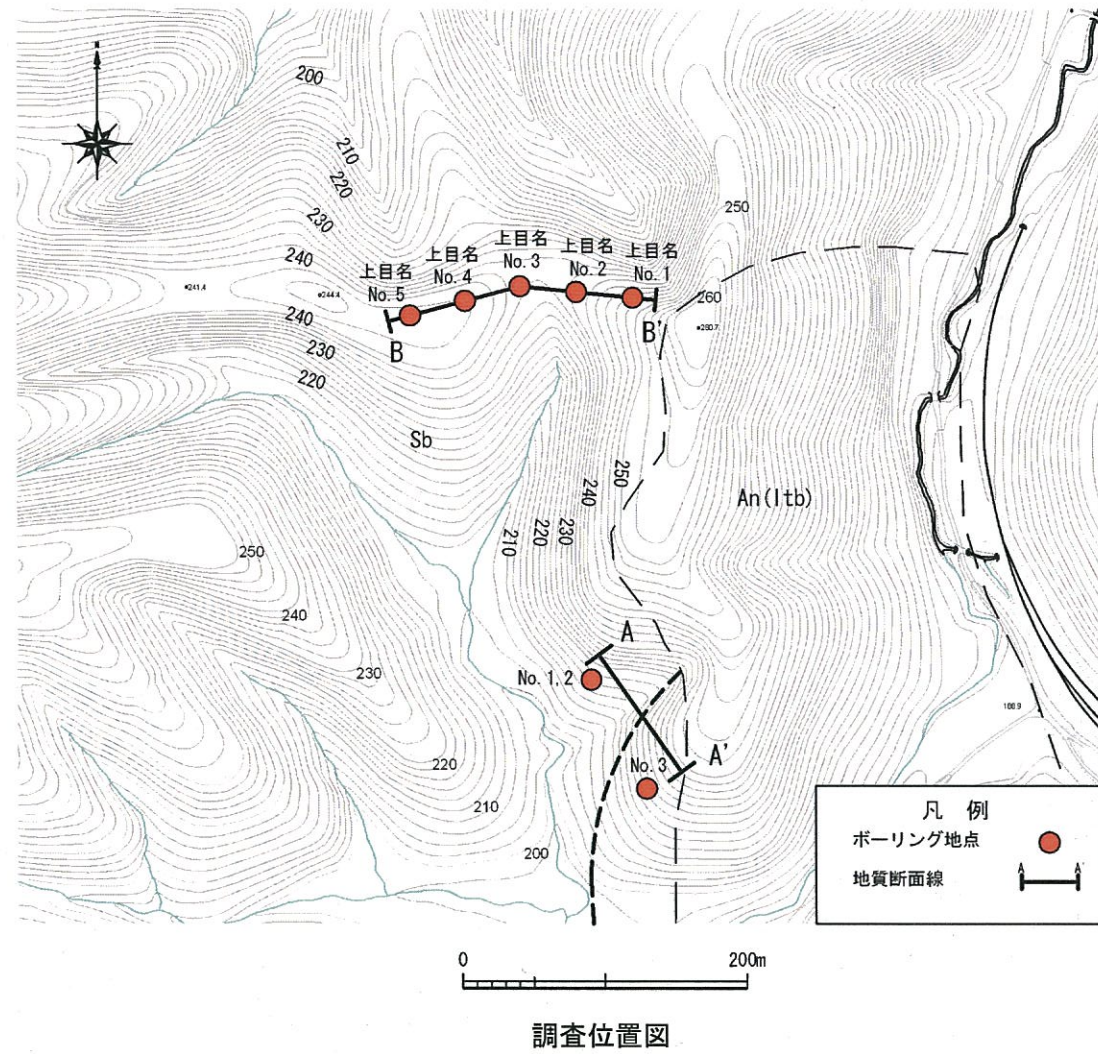


No. 3 露頭



No. 4 露頭

添付図 4-2 上目名付近の断層南部の露頭スケッチ

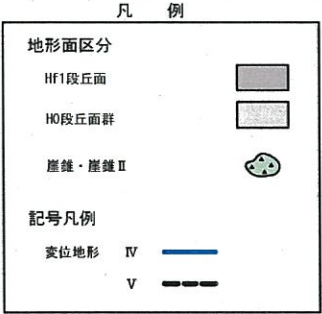
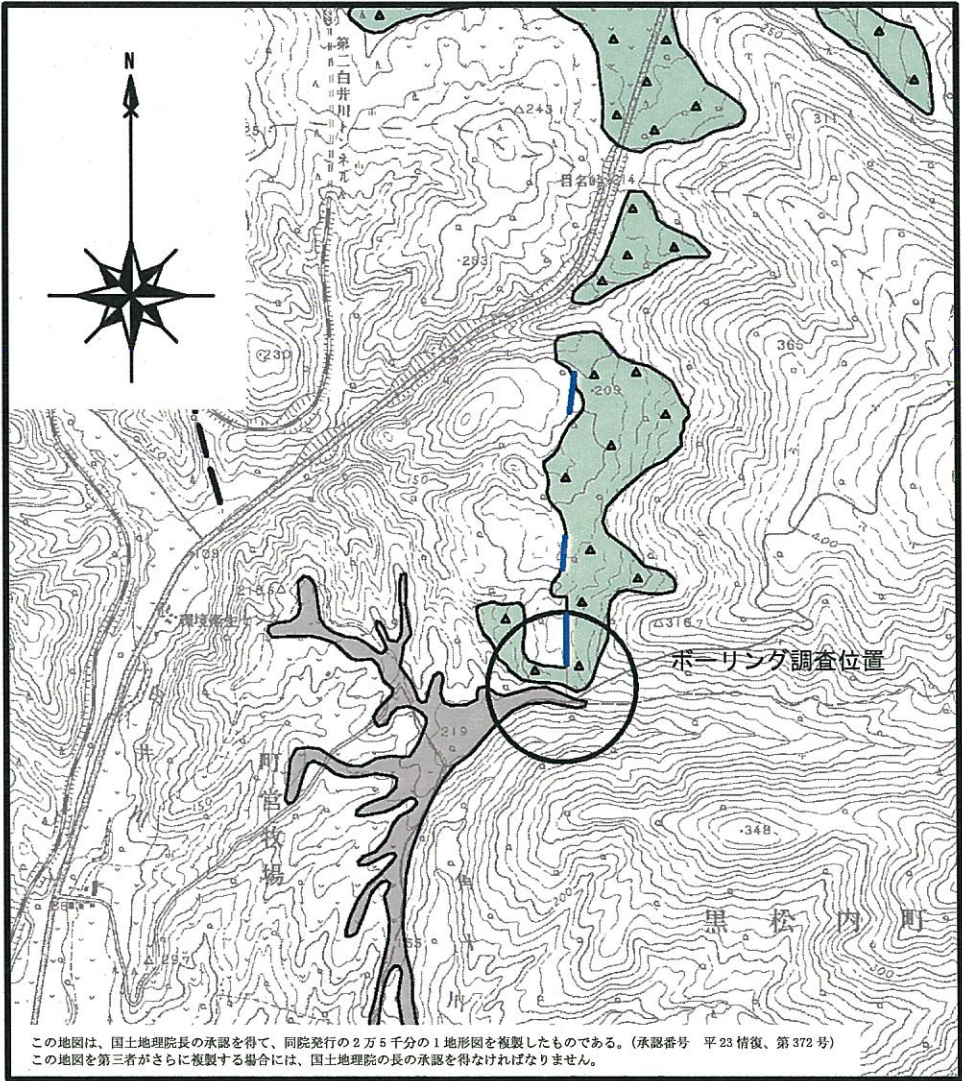


添付図 4-3 上目名付近の断層北部のボーリング調査結果

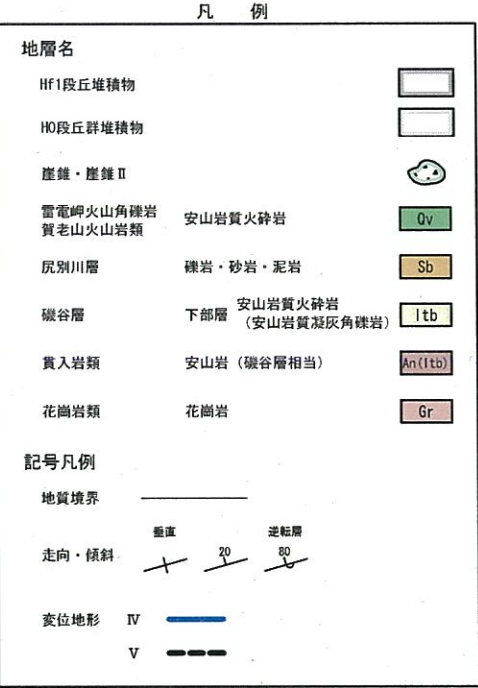
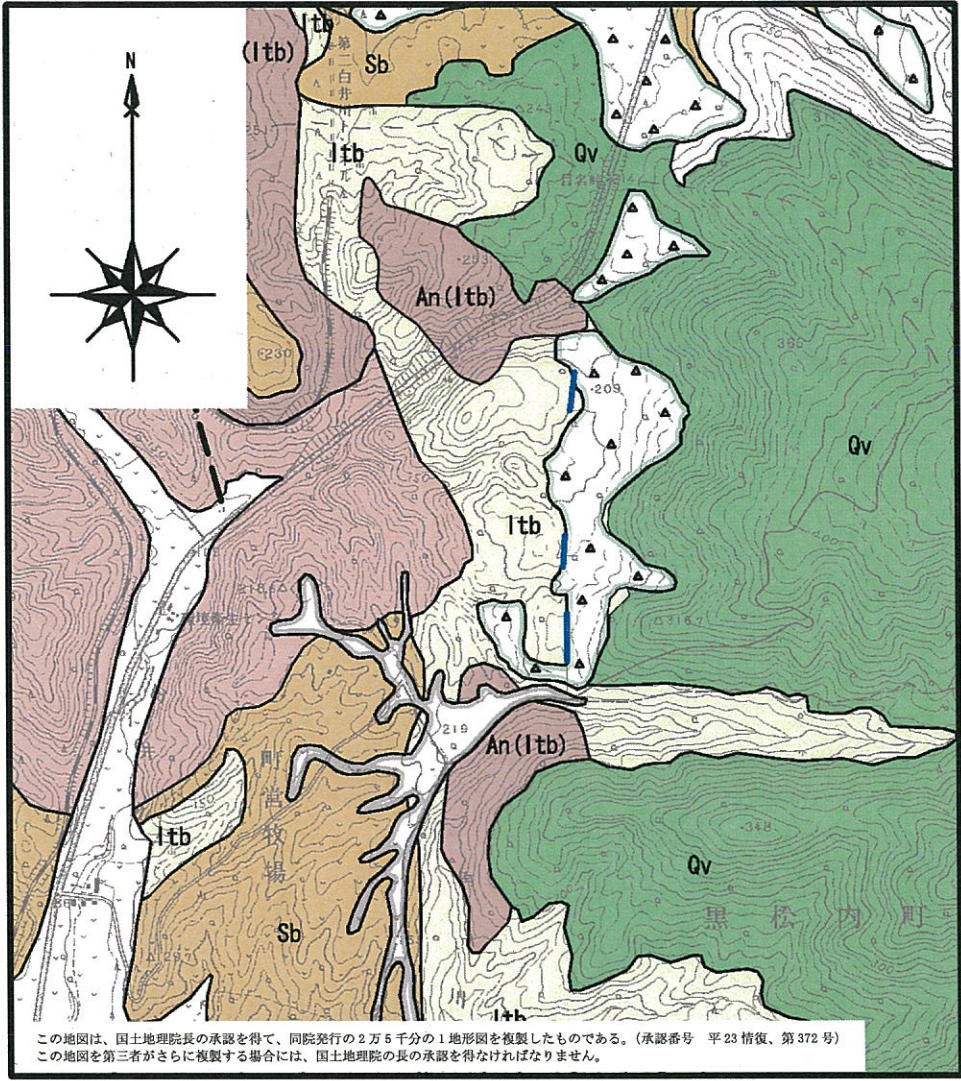
敷地周辺・近傍の断層等

5. 角十川付近の断層

調査項目	調査手法	調査結果	備考
文献調査	—	・新編 日本の活断層（1991）：記載なし	
		・活断層詳細デジタルマップ（2002）：推定活断層 L=約 1km、N-S 方向、西側隆起	
		・50 万分の 1 活構造図「札幌」（1984）：記載なし	
地形調査	空中写真判読	・やや急峻な山地の山麓の短い区間に断続的に孤立丘状の高まりが分布している約 1km の区間を区分Ⅳとして抽出。 ・上記区間の北方には丘陵が、南方には Hf1 段丘面が認められるが、区分Ⅰ～Ⅳに該当するような変位地形が認められない。	添付図 5－1 角十川付近の断層周辺の地形分類図及び地質図
地表地質踏査	—	・角十川付近の断層周辺は、礫谷層（上部中新統）の凝灰角礫岩及び安山岩類が分布しており、これを更新世の崖錐堆積物及び風成層が覆っている。	添付図 5－1 角十川付近の断層周辺の地形分類図及び地質図
ボーリング調査	—	・角十川付近の断層の中央部・基盤岩の上面の分布は、西側で高くなっているが、破碎帯等の断層の存在を示唆するような構造は認められない。 ・角十川付近の断層の南方延長・高位段丘面の基盤岩の上面は変位地形の延長部を挟んで緩やかに西側に傾斜して連続している。	添付図 5－2 角十川付近の断層のボーリング調査結果
総合評価		・角十川付近の断層中央部におけるボーリング調査結果より、破碎帯等の断層の存在を示唆する構造は認められない。 また、角十川付近の断層周辺には、文献に記載されるような西側隆起の断層を示唆する地質及び地質構造は認められない。	

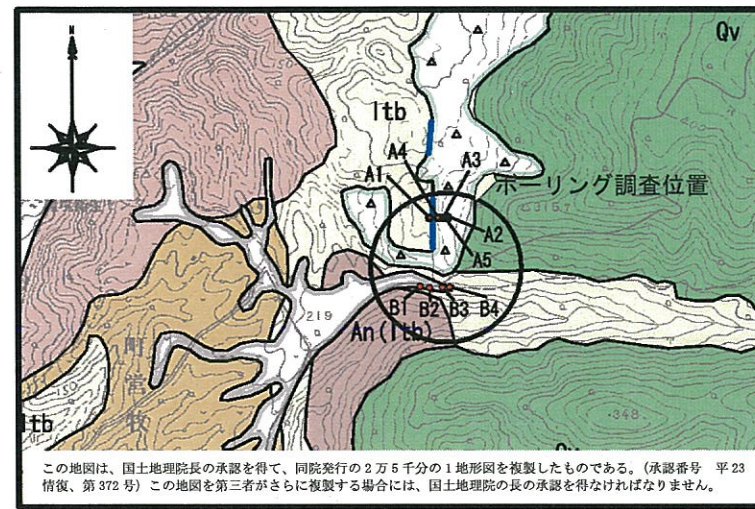


地形分類図

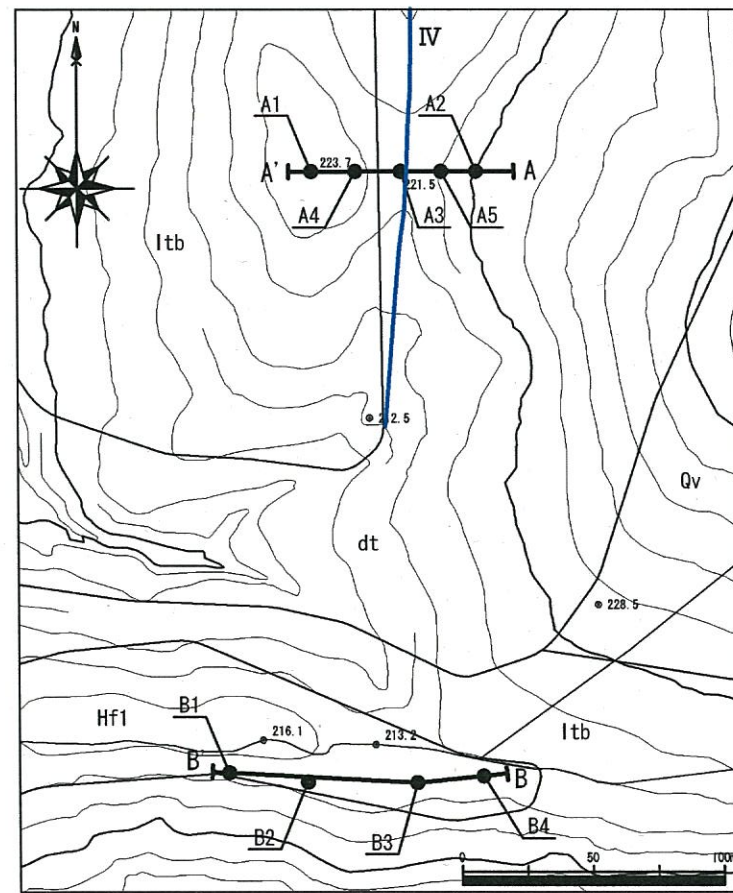


地質図

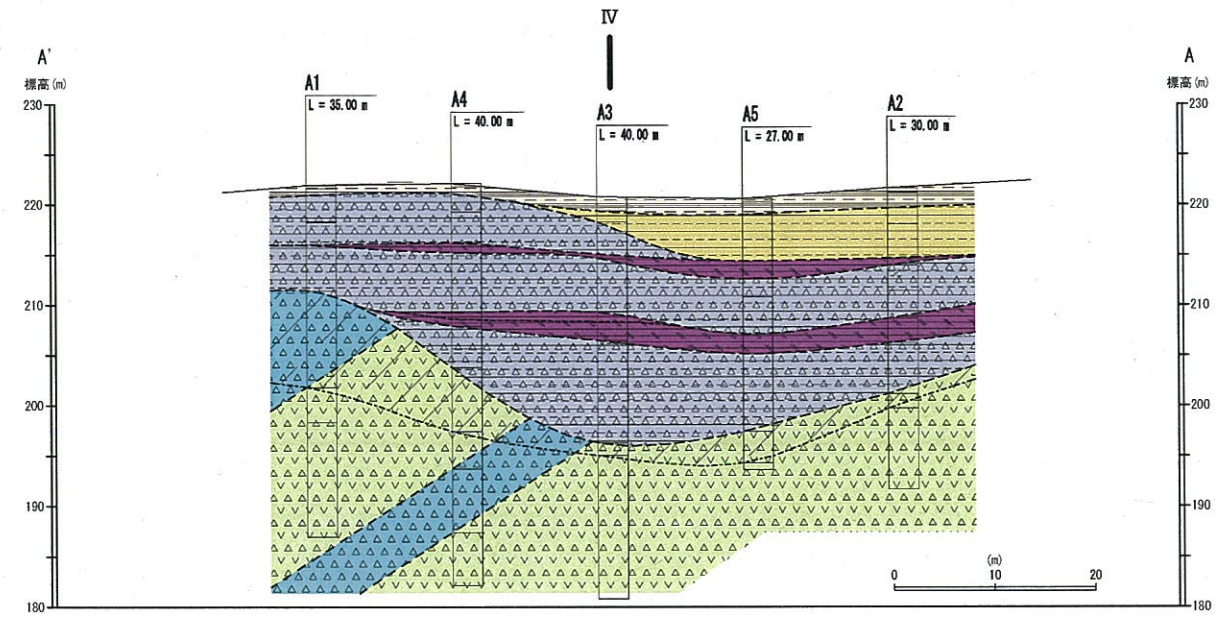
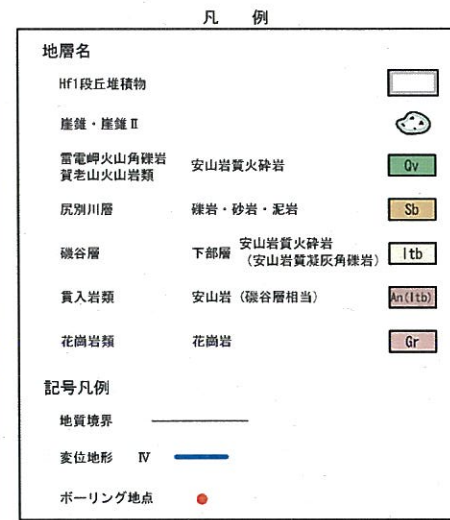
添付図 5 - 1 角十川付近の断層周辺の地形分類図及び地質図



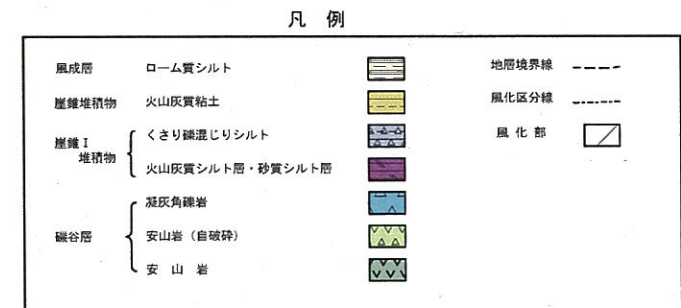
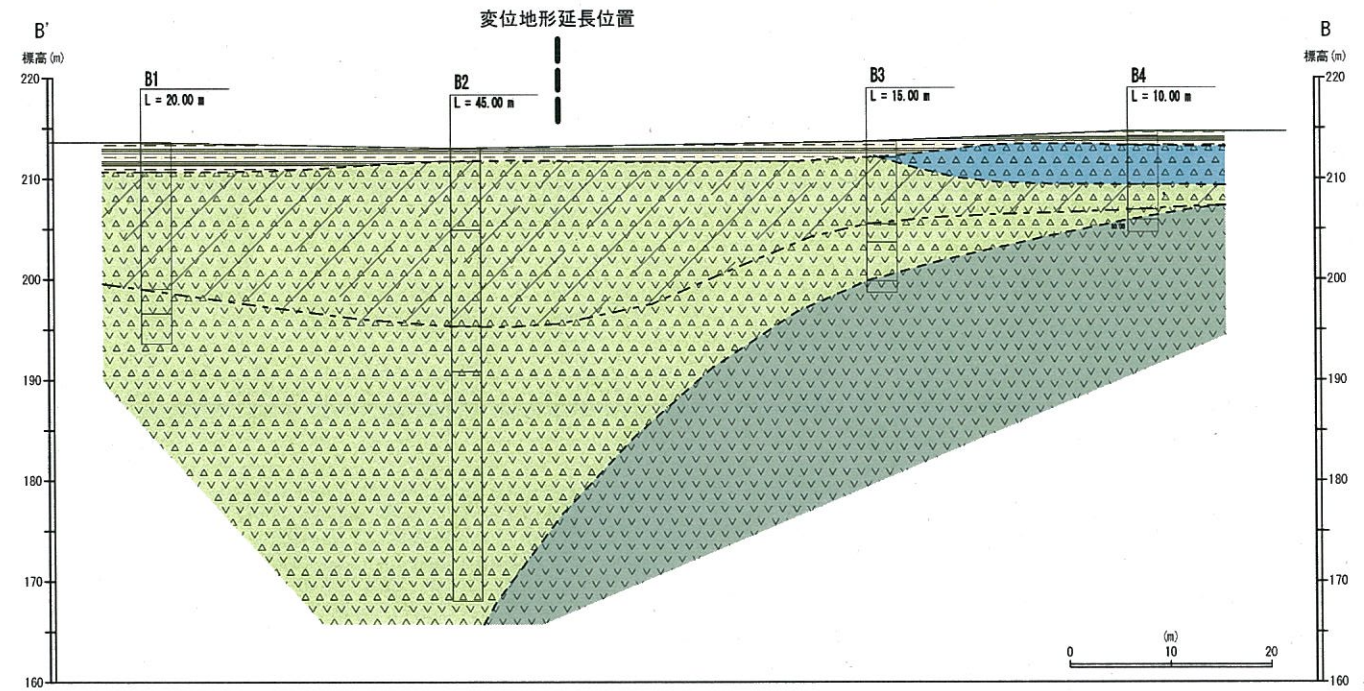
調査位置図



詳細調査位置図



中央部地質断面図



南方延長地質断面図

添付図 5-2 角十川付近の断層のボーリング調査結果

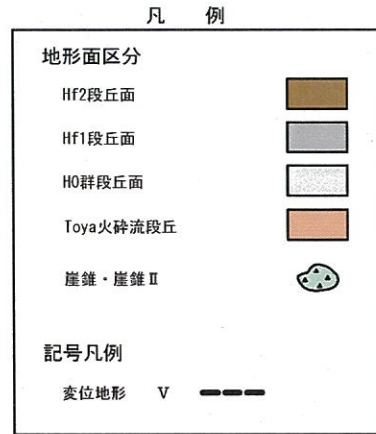
敷地周辺・近傍の断層等

6. 白井川付近の断層

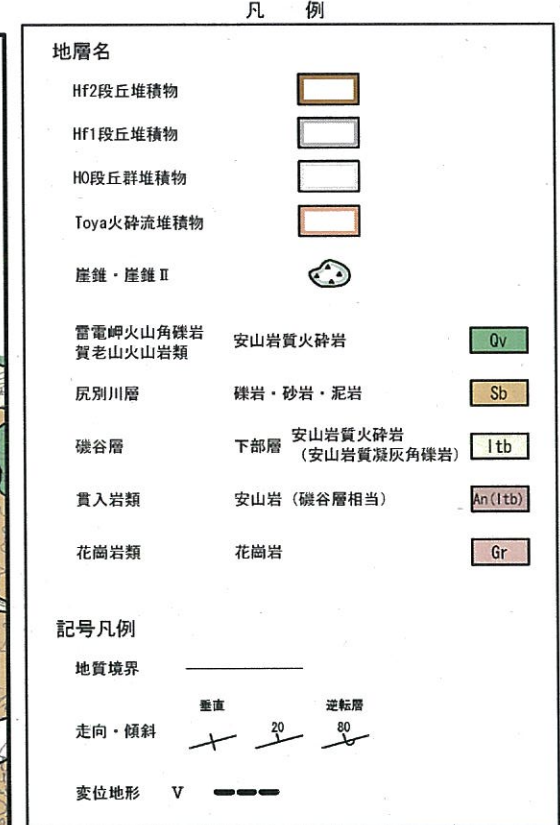
調査項目	調査手法	調査結果	備考
文献調査	—	・新編 日本の活断層 (1991) : 記載なし	
		・活断層詳細デジタルマップ (2002) : 推定活断層 L=約 1km、N-S 方向～NNW-SSE 方向、東側隆起	
		・50 万分の 1 活構造図「札幌」(1984) : 記載なし	
地形調査	空中写真判読	・文献に示される断層位置付近は、丘陵と沖積低地との地形境界付近であり、その地形境界は長さが短く、形態も不鮮明であり、区分Ⅰ～Ⅳに該当するような変位地形は認められない。また、丘陵や沖積低地並びに地形境界の北端及び南方延長に分布している洞爺火砕流堆積面にも区分Ⅰ～Ⅳに該当するような変位地形は認められない。	添付図 6-1 白井川付近の断層周辺の地形分類図及び地質図
地表地質踏査	—	・文献から推定される断層位置の北端部及び南方延長に洞爺火砕流堆積面が分布し、その分布標高は、西流する熱郭川の現河床勾配と調和的に流下方向へ高度を減じており、分布標高に差は認められない。	添付図 6-2 熱郭川沿いの火砕流堆積面の分布標高
総合評価		・白井川付近の断層付近は、丘陵と沖積低地との地形境界付近であり、その地形境界は長さが短く、形態も不鮮明であり、区分Ⅰ～Ⅳに該当するような変位地形は認められない。また、白井川付近の断層周辺に分布する洞爺火砕流堆積面の分布標高に差がない。これらのことより、少なくとも後期更新世以降活動した活断層は認められない。	



地形分類図

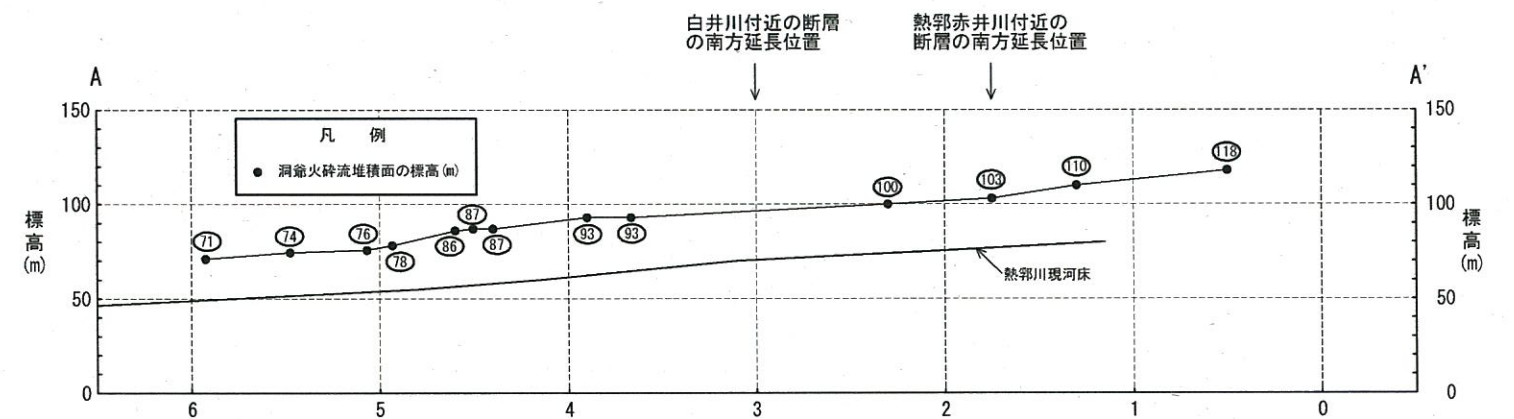
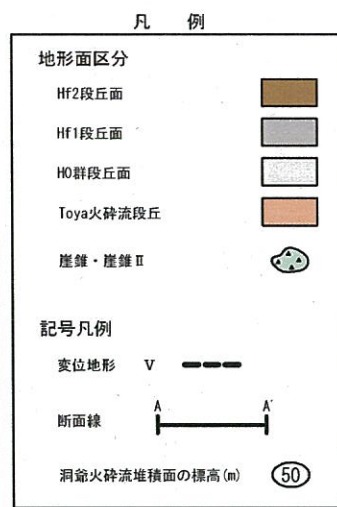
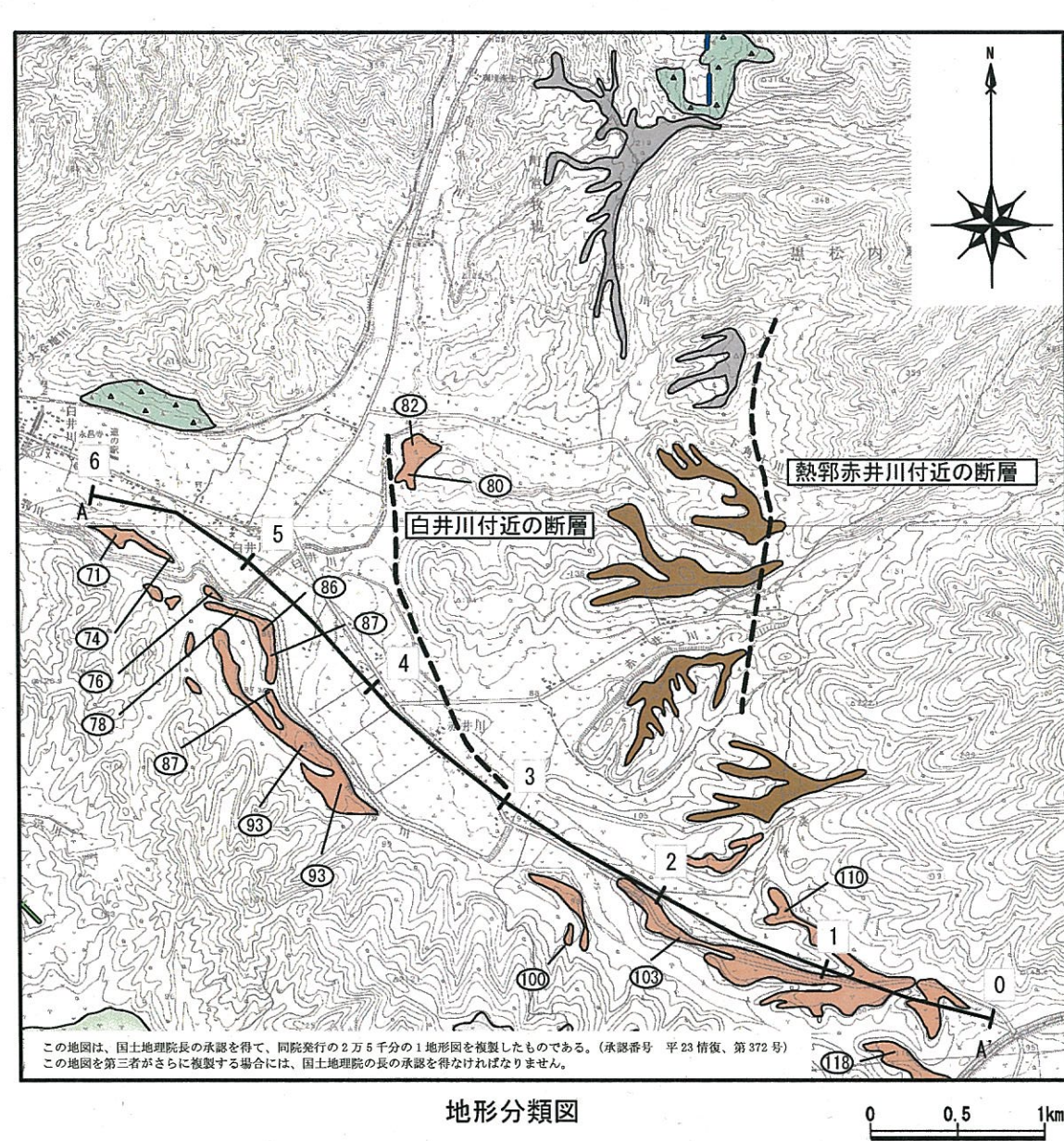


地質図



文献に示される断層位置は、白井川地区の東方にある丘陵と沖積低地との地形境界付近であり、その地形境界は長さが短く、形態も不鮮明である。また、丘陵や沖積低地並びに地形境界の北端及び南方延長に分布している洞爺火砕流堆積面にも、区分Ⅰ～Ⅳに該当するような変位地形は認められない。これらのことから、区分Ⅰ～Ⅳに該当するような変位地形は認められないが、文献の記載を参考に、上記地形境界を区分Ⅴとして示した。

添付図6-1 白井川付近の断層周辺の地形分類図及び地質図



熱郭川沿いの洞爺火砕流堆積面分布標高変化図(投影)